

十島村教育委員会だより 令和2年1月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

シリーズ 新聞に投稿
(令和元年11月12日南日本新聞「若い目」掲載)
宝島小2年 本名 百竹

朝5時。友だちの家をのせたフ
エリーとしまが、たから島を出こうしま
した。なかよくしていた友だちが、たか
ら島からいなくなってしまうことがとて
もさびしくて、どんどん小さくなってい
くフェリーにいつまでも手をふり続けま
した。
友だちの家をのせたフエリーとしまが、たから島を出こうしました。なかよくしていた友だちが、たから島からいなくなってしまうことがとてもさびしくて、どんどん小さくなっていくフェリーにいつまでも手をふり続けました。
友だちの家をのせたフエリーとしまが、たから島を出こうしました。なかよくしていた友だちが、たから島からいなくなってしまうことがとてもさびしくて、どんどん小さくなっていくフェリーにいつまでも手をふり続けました。

(令和元年11月17日 南日本新聞「ひろば」掲載)
地域に元気を届ける学校の存在 内村 健二 (十島村)

「うわー、かわいー。一足早いクリ
スマスブレゼントが届いた。送りは宝島
から大きな歓声があがった。月1回は学
校だよりやお便りや児童生徒会新聞を
メガネをかけて児童生徒会新聞を届ける
先月の交流給食で中学生の平和と一
緒に給食を食べた。中学生の平和と一
は、子どもたちの競争に文化祭のイン
ビュートに答えてくれた。帽子の文化祭
味で編んでくる毛糸の帽子の文化祭
子どもたちに届いた。その早稲作
スブレゼントである。一足早いクリ
「社会に開かれた学校」とは、「地域
に元気を届ける学校」と考えてい
はないか。朝から元気な声が響く。子
交組を教室から歌声が響く。子ども
り組みを教室から歌声が響く。子ども
緒に給食を食べた。中学生の平和と一
は、子どもたちの競争に文化祭のイン
ビュートに答えてくれた。帽子の文化祭
味で編んでくる毛糸の帽子の文化祭
子どもたちに届いた。その早稲作
スブレゼントである。一足早いクリ
「社会に開かれた学校」とは、「地域
に元気を届ける学校」と考えてい
はないか。朝から元気な声が響く。子
交組を教室から歌声が響く。子ども

シリーズ 新聞に投稿
(令和元年11月25日南日本新聞「若い目」掲載)
宝島中2年 福島 嘉津穂

私に住む宝島では、小・中学校で毎年十
一月に収穫祭を行っている。収穫祭は小・中
学生が4月から半年かけて育てた落花生
を、島民の方々に振る舞い交流を深める行
事だ。
島民の方々に食べてもらおう落花生に手は
抜けない。お世話になった島外の方々にも
送るため、種まきから苗の手入れ、収穫、
黒糖を絡めた黒糖ピーナッツにする調理、
袋詰めまで丹精込めて取り組んだ。
そして迎えた収穫祭。私は進行役で前方
から様子を見ていた。いよいよ落花生を食
べ始める時間になった。どきどきしながら
島民の方々の反応を待った。あちこちで「今
年もおいしいね」「毎年ありがたう」とい
った声が聞こえてきた。肩の荷が下りて、
これまでの頑張りが良かったと思った。
この収穫祭は、宝島小・中学校で続いて
いる島民の方々とふれあう大切な伝統行事
だ。来年も喜んでもらえるよう、おいしい
落花生を作っていきたい。

【悪石島小・中学校からのメッセージ】
教諭 片野田 隆紀

悪石島に赴任して4年。島の時間に身を委ねながら、子どもと散歩したり、魚釣りをしたり、若者たちとサッカー部を作ったり…と日々の生活を楽しんでいます。
365日欠かさず温泉に通う私は、よく観光客の方々と一緒に温泉につかることがあります。その中でよく出る質問が「悪石島の『名物』や『名所』って何ですか?」です。すると、私はいつも『人』です!と答えるようにしています。港から集落まで距離がある悪石島。それを知らずに歩いている方には、必ず誰かが声をかけ、車に乗せてくれます。船が欠航になり、食料が不足すると「先生の所は大家族だから…」と、そっと野菜や魚を差入れてくださいます。そして、何よりも「人が好き」であることです。
島の方々はよく「子どもは島の宝」「先人の方々は島の宝」と話をしていただきます。先人の苦労があって、今の私たちの豊かな生活がある。そして、子どもたちには、この島をより豊かな島にしてほしい。そんな願いが込められた言葉なのかもしれません。2018年11月29日に悪石島のボゼが世界文化遺産に登録されました。「人」をもっと大切に作る島だからこそ、人から人へ伝統も受け継がれ、長い年月を経て、こうして世界に認められる素晴らしい島になったのだと思っています。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ
口之島のセリイ岬から見る雄大な景色、中之島の草原を軽快に走るトカラ馬、小宝島の赤立神に重なる真っ赤な朝日、そして、宝島の観音堂にあるパワースポット(鍾乳洞)。訪れることができた各島で感動を味わうことができました。十島村は7島で「OneTeam」です。自分の島をよく知るのはもちろんですが、他の島へも足を運ぶことで、新しい十島の魅力に気付くことができるのではないのでしょうか。悪石島にお越しの際は、ぜひお声かけください。(近いうちに諏訪之瀬島や平島にも…)

シリーズ・・・十島村で学ぶ
小宝島小学校 5年 岩下 和矢

兄の背中
ぼくの兄は、イケメンとは言えない。勉強はできるし、運動もまあまあできる方ではある。なで肩で、ほっそりしている背中。たまに頭をかくくせがある。そして、ぼさぼさ頭に黒ぶち眼鏡。ぼくと同じだ。そんな兄の口癖は「せいぜい、がんばれよ」自分なりにがんばっているつもりだから、無性に腹が立つ。
そんな兄は、全児童生徒10名の小宝島小中学校唯一の中学3年生だ。山海留學生が多く、地元の子どものはぼくを含め、4名しかいない。兄はその最高学年なのである。いつもみんなから褒められる兄。何がすごいのか、ぼくはこれまでわけが分からなかった。「おい、和矢。初めての遠泳、せいぜいがんばれよ。」もうすぐ水泳大会で、ぼくは今年から500メートル遠泳にでる。小宝島の伝統だ。まだ、100メートルほどしか泳げないぼくに声を掛けてくれたのだ。不安なぼくに気づいたのかもしれない。「平泳ぎ、教えてやるよ。」うれしかった。
兄は今年小宝島を出る。鹿児島市の高校へ進学するのだ。兄はこれまで最高学年としてだけでなく、小宝島の伝統を受け継いできた人物なのだ。ぼくは今年6年生になる。上には中学生がいるが、全員山海留學生だ。地元で一番の年長者はぼくなのだ。次はぼくが兄のように伝統を受け継いでいかなければならない。周りのことに気を配ることができる兄のように。みんなから信頼される兄のようにぼくはなりたいたい。

1月・・・新成人を祝う会

十島村教育委員会
教育長 有村孝一

令和となって初めての新年です。令和2年の今年、千支でいうと「庚子(かのえね)」といわれています。「庚子」とは、新たな息吹と繁栄の始まりであり、新しいことを始めるとうまくいくといわれています。人生100年時代と言われます。今、未来を展望し今年何をなすべきか、年頭の今考えてみるのはいかがでしょうか。

さて、今年も役場で新成人を祝う会が開催されました。1月13日の成人の日です。恒例になりましたが、毎年43市町村でこの日に成人を祝う会を実施するのは、十島村だけです。県内で最後に開催するということになります。そのせいか、多くのマスコミの方々も来ていただきました。

今年の新成人の対象者は、7名でした。その内5名の皆さんに参加していただきました。参加したのは、口之島の日高裕星さんが鹿児島市から、中之島の小林良介さんと諏訪之瀬島の伊東聖真さんが熊本県から、宝島の伊地知麻鈴さんが東京から、それに役場職員の松下宗磨さんでした。

式典では、肥後正司村長が、「トカラで育った思い出を宝に、新しい時代を築いてほしい」と式辞を述べ激励をされました。

これに対して新成人からは、次のような抱負が述べられました。

日高裕星さんは、「消防士になり、自然災害が多くなっている今、南海トラフへの恐怖が高まっている中で、1人でも多くの人を救える人になりたい。」小林良介さんは、「後輩たちが戻ってきてやすい村づくりをしたい、そのために大学に進学して頑張っています。」伊東聖真さんは、「大学に進学して鍼灸の勉強を



伊地知麻鈴さんは、「自分の夢である学芸員を目指して来年から専門学校に通います。これから、手本となる大人になるために自分を磨き続けたい。」松下宗磨さんは、「成人を機に自分の知らないことに挑戦したり、固定概念を覆すような考え方を取り入れながら、日本だけでなく世界にも知られるような十島村を作るために頑張っていきたい。」などと、これからの抱負を堂々と話してくれました。

参加した保護者、恩師、トカラふるさと会の方々、目の前の新成人の頼もしい姿に触れ、新成人の前途を期待する温かい眼差しで見守っていらっしゃいました。また、式の様子は全島にテレビ会議システムでつないでいましたので、新成人の皆さんは、モニター越しに久しぶりに会った島の方々との会話が弾んでいました。

語らいの時間はあっという間に過ぎてしまいました。将来この5人が、何らかの方法で、十島村に貢献してくれることを願ってやみません。

十島村社会教育学級 ～学びの風～

各島には、それぞれ社会教育学級があります。この学級の企画や運営については、主に教頭先生に学級主事をお願いして、年間10回程度の講座を開講していただいています。

社会教育学級は、一般成人を対象とした学級で、講座内容は、地域の方々の要望や現代社会における課題、教養を高める内容、人生を豊かにする趣味的な内容、健康に関する内容など、学級主事の教頭先生方が工夫して開講していただいています。

また、本年度は各学校にALTの先生が配置されたことにより、英会話の講座も開講されています。

社会教育学級は、卒業後の大人にとっての学びの場です。現代社会は、情報化の時代であり、学びの場です。現代社会は、情報化の時代であり、学びの場です。現代社会は、情報化の時代であり、学びの場です。

学ぶ機会もいろいろあります。これからは、多くの方々に参加していただき、生涯学習時代・高齢化社会の新たな生き方の参考にしてください。

